

ク・クラックス・クランについて

西 幸 保

ク・クラックス・クランは南北戦争後の南部に於て、戦後解放宣言に依つて自由民となつた黒人に對して白人の優越を守るために出現した秘密結社であるが、南部人は「ク・クラックス・クランはユニオンリーグ(南部に於ける最重要なる反動的組織)に抵抗するために組織され、暴力行爲を行う様にすゝめる秘密結社だと云つて居る。ク・クラックス・クランの起源をたずねてみると、それは一八六二年に北部で、民主黨員が共和黨の戦争政策を攻撃した時、ユニオンの大義を支持すべく作られたのである。ところが戦争が終局に近づいた時、それは北方的な團體として、或る地方に残存し、徐々に南部にまでひろがつた。南北戦争後黒人は解放され、白人と同等のあらゆる權利を得た時に、白人は階級意識からくる白人優越を守るため、又南部社會が敗北して奴隸制度は廢止され、黒人は自由労働者となり、南部社會は全く形態を新にした。その社会の流れに對する反逆として強く南部に根ざし、共和黨員に従ふ白人を威嚇し、地方急進共和黨指導者を脅迫し、黒人が政治的利權を行使する事をさまたげる武装團體となつた。黒人の迷信を利用し、白衣を纏つて夜中馬に乗つて、黒人部落を襲い、家や小屋を焼きはらうなど白人は解放民に多くの暴逆を行つた。かくて一八六七年に南部社會の状態は全く混亂を來した。いくつかの團體が、一般的に、ク・クラックス・クランの名で知られているが、いづれも目的、組織は同

じであつた。即ち、Knights of the Camelia, White Brotherhood, Constitutional Union Guards, Pale Jaes Council of S. City, Association of 76. 等があつた。

ク・クラックス・クランの名前は、ク・クラックス(Ku Klux)はギリシヤ語で仲間と云う意味のクックロス(Kuklos)から出た言葉で、クラン(Klan)は語調をととのへるために附けられたもので意味はない。

南部人は此の運動の中に、彼等の上のしかゝる鉄の手に抵抗する手段を見出した。彼等の最も有力な指導者達はそれを取りあげ、一八六七年四月ナツシュヴィルに於ける秘密集合は強固なる集中的組織の下に、此の運動をもたらししたのである。初めは集權的な形態であつたが、ク・クラックス・クランの眞の勢力は北方の各本部にあつた。そしてあまりにも多くの大膽な、主として若者に依つて構成されあらゆる階級の者が居た。一八六七年から一八六八年には、このク・クラックス・クランは創設者達の意向にかなうものであつたが、一八六九年の初めになると無鉄砲な行爲が明かに増大した。そこで首領者達は色々と忠告の命令を出したが効果がなかつた。

本部は依然存続し、一層無謀なる分子の手にとどまつた。思慮深い南部人達はク・クラックス・クランの行動のため北部連邦軍の南部人

に對する監視が苛酷になるのではないかと恐れはじめた。

一八六八年の大統領選挙は多くの興奮をまき起し、恐らくク・クラックス・クランの行爲を更に増大せしめた。一八七〇年までに、共和黨急進派は憲法の中に、第十五條修正と云う形で、奴隷廢止民主主義の最後の勝利を記録して居た。その修正は人種や以前の仕事の如何等に依つて選挙權を州が否定する事を禁じた。急進派は又 Enforcement acts (實施條令)によつて積極的な手段をとつた。この條令は一八七〇年から七一年にク・クラックス・クランを抑壓し、黒人を保護する爲に議會を通過したものである、實施條令は革命的處置であつた。一八七〇年の最初の條令は市民の選挙權や市民權をうばつたり、その權利を強要するために軍隊を行使する事を許可したりする州の役人を罰するものであつた。又一八七一年議會はク・クラックス・クランの條令を出し、北部連邦政府に政治及び市民權をおびやかす陰謀を抑壓する力を與へその様なものを合衆國に對する反逆と規定し、大統領にその地方での人身保護令の保護を停止する權限を與へた。これに依つてク・クラックス・クランの行爲を取締り、同時に國會委員會がその地方の事件を調査すべく任命された。しかしその後にもク・クラックス・クランは解團し武器を捨てる事をしなかつた。ク・クラックス・クランが黒人を抑し、白人に力を與へたと云ふ直接の效果の外に、ク・クラックス・クランは、白人が如何に未來をコントロールし得るかを示した。唯その弱點は暴力を用ひる事に依つて北部軍の監視があつて、その活動を活發に出来なかつたところにある。しかし暴力は不要である事が次第にわかつた。黒人は單純で幼稚なので取扱ひがやさしく容易であつた。公然たるデモ、個人的な威嚇、その他暴力には及ばない色々の形の手段が、黒人達の種々の權利の行使をさまたげ、選挙に投

票させぬのに十分に役立つた。又その行爲は北部の官憲とまさつを生ずる事がなかつた。この様な方法は一八七〇年以後續けられた。どんな事をしても決して身体的危害を及ぼさない様にやると云ふ方法がとられた。

騎乗した人達がライフル銃をもつて、政治演説會に出席し、演説を監視し、黒人に恐怖の念を起させ、南部は白人の國だと公然と述べた。そして黒人達に政治活動をしないのが當然だと悟らせた。

以上の如くにして、黒人の政治的進出をおそれた旧南部の反動白人勢力はかゝるク・クラックス・クランの如き祕密結社を組織して、黒人を脅迫し、その投票を妨害し黒人及びその同情者にテロ行爲を行つたりしたのである。

しかし一八六九年頃から次第に「白人の優越」は恢復され、一八七二年にはごく少數の聯邦の指導者を除いて追放が解除され、一八七六年の大統領選挙の時サウス・カロライナ、ルイジアナ、フロリダの三州のみが、共和黨の支配下にとどまるのみとなつた。

かくて軍隊は南部よりひきあげ一八七七年には全南部には白人の優越が復活するに至り、同時に南部に於ては到々民主黨が全白人人口の支持を得て共和黨の支配はきえたのである。

しかし、彼等の共和黨急進派に對する反感は今日に至るまでソリッド・サウス(團結せる南部)と稱する如き地方的政黨を組織し、民主黨の堅固な地盤を形成するほど根強いものを生じたのである。

かくて南部の政治は再び南部人の掌中に復し、南部の社會を一時混亂にをとしいれた無能なる「旅政治屋」政治は打倒され、こゝに至つて、ク・クラックス・クランは自然にその組織は消滅したのである。

(地歴科歴史專攻四年)